

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																							
東放学園専門学校		昭和54年4月1日	堀内 和人	〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531																																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																							
学校法人東放学園		昭和54年4月1日	斉藤 晃	〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531																																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
工業	工業専門課程	照明クリエイティブ科	平成30(2018)年度	-	-																																						
学科の目的																																											
テレビ、コンサート、演劇等の照明スタッフを育成する学科。ライティングプラン・セッティング・オペレート等、照明に関する知識やスキルを習得する実践教育、ビジネスマナーやチームワーク等を身につける人間教育、創造の感性や熱意を育む自立教育という三つの教育方針を定め、メディアとエンターテインメントの発展に寄与できる人材の育成を目的としている。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)																																											
照明技術者技能認定、日本語ワープロ検定 中退率:4%																																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	480 単位時間	420 単位時間	1,080 単位時間	単位時間																																				
		- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位																																				
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																																								
154 人	116 人	12 人	10 %																																								
就職等の状況																																											
<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>:</td><td>35</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>31</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>29</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>94</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>89</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td colspan="3">その他3名</td></tr> </table>								■卒業生数(C)	:	35	人	■就職希望者数(D)	:	32	人	■就職者数(E)	:	31	人	■地元就職者数(F)	:	29	人	■就職率(E/D)	:	97	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	94	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	89	%	■進学者数	:	1	人	■その他	その他3名		
■卒業生数(C)	:	35	人																																								
■就職希望者数(D)	:	32	人																																								
■就職者数(E)	:	31	人																																								
■地元就職者数(F)	:	29	人																																								
■就職率(E/D)	:	97	%																																								
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	94	%																																								
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	89	%																																								
■進学者数	:	1	人																																								
■その他	その他3名																																										
(令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)																																											
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ㈱共立ライティング、㈱TBSアクト、ライティングビッグワン㈱、㈱ワンダーライト、㈱TREE Digital Studio、㈱テレテック、㈱オフィス・ドゥーイング ほか																																											
第三者による学校評価																																											
<table border="1"> <tr><td>■民間の評価機関等から第三者評価:</td><td colspan="7">無</td></tr> <tr><td>※有の場合、例えば以下について任意記載</td><td colspan="7"></td></tr> <tr><td>評価団体:</td><td>受審年月:</td><td colspan="5">評価結果を掲載したホームページURL</td><td></td></tr> </table>								■民間の評価機関等から第三者評価:	無							※有の場合、例えば以下について任意記載								評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL																	
■民間の評価機関等から第三者評価:	無																																										
※有の場合、例えば以下について任意記載																																											
評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL																																									
当該学科のホームページURL																																											
https://www.tohogakuen.ac.jp/toho/lighting/																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)																																											
(A: 単位時間による算定)																																											
<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>360 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>450 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table>								総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	180 単位時間	うち必修授業時数	450 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																						
総授業時数	1,980 単位時間																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間																																										
うち企業等と連携した演習の授業時数	180 単位時間																																										
うち必修授業時数	450 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																										
(B: 単位数による算定)																																											
<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位</td></tr> </table>								総授業時数	- 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位	うち必修授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位																						
総授業時数	- 単位																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																										
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位																																										
うち必修授業時数	- 単位																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																										
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位																																										
教員の属性(専任教員について記入)																																											
<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>5 人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>4 人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>9 人</td></tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		9 人																		
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人																																									
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4 人																																									
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																									
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																									
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																									
計		9 人																																									
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数																																											
3 人																																											

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、

- ①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。
- ②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。

以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。

また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
藤延 直道	協同組合 日本映像事業協会	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	①
森 俊文	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会顧問	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	①
竹田 和史	株式会社 ブルーフラッグ 制作部	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
長谷川 一彦	株式会社東京サウンド・プロダクションビデオセンター編集課	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
富田 健吾	株式会社 ブル 常務取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
市川 一弘	株式会社共立取締役 管理本部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
高津 勝仁	松竹衣装株式会社 営業本部 映像部部长	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
堀内 和人	東放学園専門学校 校長 教育課程編成委員会 委員長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
笹原 恭	東放学園専門学校 教務教育部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
木戸 司	東放学園専門学校 学務管理部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
副島 照礼	東放学園専門学校 教務教育部 照明クリエイティブ科 学科主任	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月22日 14:00～16:00

第2回 令和6年3月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

一回目の委員会で、企業や業界団体の学外委員から業界の動向や学校に求める人材育成像(知識・技能)、教育課程編成の助言等を聴取した上で学内委員との協議を行い、学科担当教員で構成するカリキュラム会議で教育課程の編成案を作成し、二回目の委員会で、学外委員への報告と協議を行い、次年度以降の教育課程の編成や授業内容の改善等に反映している。

【具体的な意見と活用状況】

・昨年度に引き続き、音楽番組やコンサートを中心として設置されているLEDビジョンと照明プランとの融合が加速している現状や、それに伴い照明だけではなく、映像、CG、電飾などを統合的に運用するシステム構築の出来るテクニシャンの必要性を伺った。取り組み始めたばかりの技術ということもあり、教育出来る人材が現場でも育てていないのが現状ではあるが、今後もこの分野の動向に注目しカリキュラムにも反映させていく。

・今年度より、「第二種電気工事士」の資格取得を目指す講座を開講したことを報告。就職活動の際に有利になる資格のため、取得させておくのが望ましいとのご意見をいただいた。

・労働安全衛生規則の一部改正により、2024年2月1日より施行される「テールゲートリフター特別教育」の義務化について現状を伺い、元来より実施していた「足場の組立て等特別教育」、「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」の他に、同講習も実施予定との報告をした。こちらも入社前に受講を済ませておく、就職活動に有利に働くことのご意見をいただいた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① テレビのみコンサートのみと活躍の場を限定しない教育、繰り返しの実習で段階的に習熟度を高める教育等を重点項目としている本学科において、これらの目的を達成するため、テレビ・コンサート・舞台演劇等のジャンルを担当業務としており、かつ、継続的に学外講師として担当いただける企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
- ② 「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
- ③ 実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
- 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、コンサート・舞台系照明技術とテレビ照明技術の2分野に関して、技術の基礎や実地トレーニングを理解・体得する実習・演習等で、各職種に実際に携わっている企業と連携し授業を実施している。準備から本番における照明演出に関わる知識や技術の理解の達成度や、各作業の忠実度や意欲等を含めた学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、学生の志望職種への理解度や実践力を高めるために、学外のコンサートホールでの実践やテレビ番組の模倣制作等を通して、「照明の仕事」全般に関わる総合的な実習も実施。1年次と同様に照明業界に従事している企業等と連携しながら授業も担当いただき、授業ごとに設定する目標到達度を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
演劇照明演習	舞台上の俳優・演技と密接に絡み合う舞台照明のプランとそれに関わる作業について、演出的観点も含めながら体得します。	(株)eimatsumoto
テレビ照明基礎	テレビスタジオで使用される機材や基本的なライティング方法等を、「触って慣れる」をコンセプトに体得します。	株式会社フジ・メディア・テクノロジー
ロケーション照明	他と比較して様々な制約が伴う屋外のロケーションにおける、灯りの作り方や効率的な照明方法を体得します。	株式会社フジ・メディア・テクノロジー
コンソールプログラミングⅠ	ムービングライト等、PCによってコントロールする照明機材を使用して、基本的な動作や操作方法を学びます。	ワイズカンパニー株式会社
コンソールプログラミングⅡ	ムービングライト等をコントロールするための専用アプリケーションの操作方法や具体的で実践的なプログラミング方法を学びます。	ワイズカンパニー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、教員研修規程として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	日本照明家協会新人講座	連携企業等: 全国舞台テレビ照明事業協同組合
期間:	令和5年4月9日	対象: 照明クリエイティブ科 教員
内容:	テレビジョン照明の基礎、テレビジョン照明に関する実地研修を行い、関連する授業やカリキュラムの開発に役立てる	
研修名:	ProLight&Visual2024	連携企業等: 一般社団法人 日本能率協会
期間:	令和6年2月14日～16日	対象: 照明クリエイティブ科 教員
内容:	最新LED機材や調光操作卓等の動向を正しく理解し、将来を見据えた機材設備等の導入に役立て、的確な実習環境を整える	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	パソコン講座 Excel2019応用	連携企業等: 東京都私学財団
期間:	令和5年8月19日	対象: 東放学園 教員
内容:	Excelのより具体的な使用方法を学び、資料作成等の業務効率化や成果アップを目指す	
研修名:	文章力向上講座	連携企業等: 東京都私学財団
期間:	令和5年9月28日	対象: 東放学園 教員
内容:	学校現場で求められる文章力の向上を目指し、筋の通った文章を短時間で作成するコツや、客観的でかつ思いが伝わる文章の書き方を学ぶ	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	日本照明家協会新人講座	連携企業等: 全国舞台テレビ照明事業協同組合
期間:	令和6年4月7日	対象: 照明クリエイティブ科 教員
内容:	テレビジョン照明の基礎、テレビジョン照明に関する実地研修を行い、関連する授業やカリキュラムの開発に役立てる	
研修名:	ライティング技術の実際を学ぶ	連携企業等: 四季株式会社
期間:	令和6年7月13日	対象: 照明クリエイティブ科 教員
内容:	実際に開催されているミュージカル公演を通して、最新のライティング技術や手法・ノウハウを学び、授業内容の充実に役立てる	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	ICT活用力向上	連携企業等: 東京都私学財団
期間:	令和6年8月14日	対象: 東放学園 教員
内容:	学生が使いこなせるようになるために、最新事例などをもとにICT活用のヒントを得ることで、教員のICT活用力の向上を目指す	
研修名:	専門学校向け 広報Webセミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和6年8月27日	対象: 東放学園 教員
内容:	高校現場における進路研究の最新動向や、大学志向が高まる中での効果的な広報事例を基に、学生募集広報の方向性を検討する	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

(法人の基本方針)

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育人人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システ
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会
(6)教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を活用し教育活動および学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応できること」「時間をかけて取り組むこと」などを検討・判断し可能な限り出来得ることから改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップなど)

【具体的な取り組み】

クラウド型学園ポータルサイトの活用などICT化を促進。実施・分析・検討・改善を繰り返しながら業務の効率化、学園サービスの充実を図り、新たな教育方法・学校運営を施行している。新たなカリキュラムの検討。日進月歩で変容していく関連業界の技術や働き方に合わせた授業内容や授業名を委員の意見の元、検討を重ね、実施に向けて準備をしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岸田 真	桜美林大学 芸術文化群 教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関
田口 裕基	日本大学 鶴ヶ丘高校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高校教諭
小川 尚人	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業
本多 晋	株式会社レック 撮影部	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業
山下 安奈		令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 令和6年5月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2) 各学科等の教育	募集学科・募集定員、照明クリエイティブ科、照明クリエイティブ科カリキ
(3) 教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6) 学生の生活支援	留学生生活支援、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン、奨学制度(留学生)
(8) 学校の財務	情報公開(財務情報)
(9) 学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10) 国際連携の状況	留学生の方へ
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 令和6年5月

授業科目等の概要

(工業専門課程 照明クリエイティブ科)															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実技	校内	校外	専任	兼任	
1			○	音楽概論	コンサートライブ照明に欠かせない、楽譜・楽器・メロディーライン等の楽曲知識全般を学び、照明デザインとその表現力を高めます。	1前	30	○			○			○	
2			○	業界特別講座	関連業界の一戦で活躍しているスタッフを招聘し、業界人としてプロフェッショナルとして必要な心構えを学びます。	1後	30	○			○		○	○	
3			○	コンサート照明Ⅰ	コンサートホールの照明関連設備や本番までの流れを理解しながら、コンサート照明に関する基礎知識を学びます。	1後	30	○			○			○	
4			○	就職講座Ⅰ	就職活動の進め方、履歴書作成と面接突破に欠かせない「自己理解」を、自分の言葉で語れる力を身につけます。	1前	30	○			○		○		
5			○	就職講座Ⅱ	「就職講座Ⅰ」を基に、履歴書の具体的な記入方法を習得。面接シミュレーションによって実践的な力を身につけます。	1後	30	○			○		○		
6			○	テレビ照明論Ⅰ	テレビと照明の関連性や歴史を理解しながら、テレビスタジオの照明設備やテレビ照明の仕事学びます。	1前	30	○			○			○	
7			○	電気工事士資格取得対策講座	第二種電気工事士資格の取得に向け、過去問題からのテストや技能試験に対する実技までを行い、必要な知識を学びます。	1前	30	○			○			○	
8			○	舞台照明論Ⅰ	舞台照明の実践トレーニングに必要なとなる、舞台の仕事や使用する照明機材等の関連基礎知識を学びます。	1前	30	○			○			○	
9			○	ミュージックライティング	音楽における照明効果から、楽曲構造・拍数の理解に進み、ピンスポット操作を含めての音の灯りを学びます。	1後	30	○			○			○	
10			○	ライティング基礎	電流と電圧の関係や安全な取り扱い方法等、照明業界で必要となる電気の知識を身につけます。	1前	30	○			○			○	
11			○	映像制作	照明の仕事に密接に絡み合う撮影や映像製作に関して、映像構成法や撮影技術等、他の役割を学びながらチームワークを学びます。	1前	60		○		○			○	
12			○	CAD実習	照明のスタンバイに欠かせない照明仕込み図を作成するための、作図専用アプリケーションの使用法を学びます。	1後	30				○	○		○	
13			○	校外学習Ⅰ	歌舞伎・演劇・ミュージカル・美術等を鑑賞。光と演技・演出の関連性を学び、照明そのものへの見識の幅を広げます。	1前後	30				○		○	○	
14			○	コンソールプログラミングⅠ	ムービングライト等、PCによってコントロールする照明機材を使用して、基本的な動作や操作方法を学びます。	1後	60				○	○		○	○
15			○	照明システム	仮設で電源線や制御線を用意する照明環境で、その作業の効率的な方法やシステムの構築方法を基礎から学びます。	1後	60				○	○		○	
16			○	スキルアップゼミⅠ	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における照明関連のスキルアップを図り、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	1前後	30				○	○		○	
17			○	テレビ照明基礎	テレビスタジオで使用される機材や基本的なライティング方法等を、「触って慣れる」をコンセプトに体得します。	1前	60				○	○		○	○
18			○	テレビ照明実習Ⅰ	テレビスタジオでの照明の仕事やドラマや音楽番組のライティングの基礎、テレビカメラを通しての見せ方等を学びます。	1後	60				○	○		○	
19			○	電気工作	照明関連機材を自作したり自分で直せたりできるように、各種工具や電気計測機器の使用法を習得し、知識の幅を広げます。	1後	15				○	○		○	○
20			○	特殊効果・電飾実習	テレビ番組からコンサートライブ・イベントなどの美術演出の一部として欠かせない、特殊効果・電飾技術の手法を学びます。	1後	15				○	○		○	○
21			○	ビジネスマナー	社会人として不可欠なビジネスマナーやコミュニケーションの重要性を認識し、好感度の高いスキルを体得します。	1前	30				○	○		○	○
22			○	Pinspot実習	ステージ上でアーティストを照らす白い光、ピンスポットの基本操作や効果的な照射方法を体得します。	1後	15				○	○		○	○
23			○	舞台照明基礎	コンサート・舞台照明で使用される機材やライトの吊り込み方法等、関わる作業のそれぞれを基礎から体得します。	1前	60				○	○		○	○
24			○	舞台照明実習Ⅰ	外部ホールでのルールやマナー、コミュニケーション力を鍛えながら、本番までの作業の流れを学びます。	1後	60				○	○		○	○
25			○	ロケーション照明	他と比較して様々な制約が伴う屋外のロケーションにおける、灯りの作り方や効率的な照明方法を体得します。	1後	60				○	○		○	○
26			○	芸術鑑賞	ジャンルを問わない優れた映像作品の数々を、プロに近い目線で鑑賞。クリエイターの感性やセンスを磨きます。	2後	60	○			○	○		○	
27			○	コンサート照明Ⅱ	コンサート・ライブでの「体で浴びるライティング」を実現するために、関連作業の理解度を高め、安全かつ効率的な手段を体得します。	2前	30	○			○			○	

28	○	就職講座Ⅲ	間近に控えた就職活動に向けて、優れたエントリーシート・優れた面接対応等、「内定を勝ち取る」術を体得します。	2 前	30	○		○	○	○										
29	○	フォローアップゼミ	採用活動を行っている企業を招聘し話を伺い、求める人材像を通して魅力ある自己表現の方法を学びます	2 後	30	○		○	○	○										
30	○	テレビ照明論Ⅱ	1年次に習得した基礎理論を土台にして、番組毎の照明の特性や撮影環境に左右されない照明技法を体得します。	2 前	30	○		○	○	○										
31	○	舞台照明論Ⅱ	1年次に習得した基礎理論を土台にして、舞台上で使用される照明関連機器の理解度を高めると共に、安全管理意識も高めます。	2 前	30	○		○	○	○										
32	○	校外学習Ⅱ	歌舞伎・演劇・ミュージカル・美術等を鑑賞。光と演技・演出の関連性を学び、照明そのものへの見識の幅を広げます。	2 前後	30			○	○	○										
33	○	コンソールプログラミングⅡ	ムービングライト等をコントロールするための専用アプリケーションの操作方法や具体的に実践的なプログラミング方法を学びます。	2 前	60			○	○	○										
34	○	コンソールプログラミングⅢ	「コンソールプログラミングⅡ」で習得した知識や技術を基に、さらに高度なプログラミングとライティングプランの作成を目指しながら、理解度を高めます。	2 後	60			○	○	○										
35	○	スキルアップゼミⅡ	学内イベントのスタッフを通して、番組制作における照明関連のスキルアップを図り、他セクションの仕事内容の理解を深めます。	2 前後	30			○	○	○										
36	○	テレビ照明実習Ⅱ	視聴者の感心と呼ぶ照明とは何か、番組や出演者を引き立てる照明とは何か。これまでの実習を生かしながら照明の完成度を高めます。	2 前後	150			○	○	○	○									
37	○	ビジュアライザー基礎	ビジュアライザーソフト「L8」の設定・操作方法を習得し、コンサートライブ等におけるビジュアルデザイン技術を習得します。	2 後	15			○	○	○	○									
38	○	舞台照明実習Ⅱ	ホールを使用した実習で、本番の経験を積みながら、2年次の実習授業として、チームワークや効率的な作業方法を習得します。	2 前後	150			○	○	○	○									
39	○	番組制作演習	各学科連携して、情報教養・バラエティ・音楽ジャンルの番組制作シミュレーションを通して、番組制作全般への理解・チームワークと関連技術の向上を目指します。	2 前	210			○	○	○	○									
40	○	野外ライブゼミ	雨の中や暗闇の中など、環境に関わらない作業や進行方法を理解しながら、2年次前半の実習として「学生が主体的に動く」実践授業です。	2 前	150			○	○	○	○									
41	○	演劇照明演習	舞台上の俳優・演技と密接に絡み合う舞台照明のプランとそれに関わる作業について、演出的観点も含めながら体得します。	2 前	180			○	○	○	○									
42	○	コンサート照明演習	スタンバイ・機材搬入・セッティング等、関連作業の更なる効率化を目指しながら、安全作業・意識とライティングの完成度を高めます。	2 前	180			○	○	○	○									
合計				42	科目	1980 単位（単位時間）														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1学年の学期区分	2期
履修方法：	初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う （留意事項）	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。